

土木工学・建築学委員会
デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
(第26期・第3回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和6年7月26日(金) 13:00~15:00
2. 会 場 オンライン会議 (Zoom)
3. 出席者 佐々木葉・伊藤香織・小野田泰明・小野悠・片桐由希子・川崎昭如・近藤存志・斎尾直子
・坂井文・田井明・高橋良和・中嶋節子・松田曜子・村上暁信・山本佳世子
※下線は出席者 事務局：藤田崇志

4. 議題および決定事項

(1) 5/27に行った第2回分科会の議事要旨を確認した。

(2) 佐々木委員長、田井副委員長より「分科会&シンポジウム開催スケジュール案」の説明があり、内容について確認を行った。配布資料参照

(3) 話題提供Ⅰ<歴史> 近藤委員より話題提供があり意見交換を行なった。

近藤存志(東洋大)「デザインとは?デザイン史、芸術文化史研究の視角から」

ニコラス・ペヴスナー著「美術・建築・デザインの研究」(1968)を元に「美術」と「デザイン」の歴史を解説。配布資料参照。下記は質疑のキーワード。

坂井: 英単語アートにスキルの意味。デザインの歴史について。分業。

近藤: 美しくないものも含めてデザイン。長く使うための美。機能の面を重視。

斎尾: ロック「別の仕事」の一つのかたちが「デザイン」なのは、に関して。

近藤: ロックの寛容論。多様な人が快適に生きていくための「デザイン」。ペヴスナーの解釈。

伊藤: 分野によるデザイン性と美術性の折り合いの違い。現代アートの社会への接近。

近藤: 現代アートがデザインに近づく傾向。社会問題提起。ダイバーシティ、人権、戦争など。

(4) 今後に向けて

- ・第4回分科会は、11/8(金) 10:00-12:00 オンライン開催。
- ・次回分科会では、話題提供Ⅱ<海外でのデザインの捉え方>斎尾委員・坂井委員予定